

昭和二十四年六月一日運輸省特別授受
昭和二十七年四月十五日印刷（毎月一回） 第四五三號

哲學研究

第三十五卷 第九册

第四百七號

昭和二十七年四月二十日發行

ヘブライ思想に於ける神と智慧(完)……………有賀鐵太郎

キルケゴールの「受取り直し」……………大谷長

危機神學の生成とその展開(完)……………樋元和一
——近世前期フランスマ精神史論——

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行ふ
 - (一) 毎月一回研究會を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年八〇〇圓、又は半年四〇〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

井	山	矢	三	松	野	西	長	田	武	高	國	島	下	重	上	白	有
島	内	田	村	尾	田	谷	尾	中	内	田	原	芳	程	澤	野	井	賀
	得	部		義	又	啓	雅	美	義	三	太	夫	勇	俊	照	二	鐵
勉	立	郎	勉	海	夫	治	人	知	範	郎	郎	夫	吉	郎	夫	尙	太

そうとしても、それが終極に於ては罪であるという事を意識する事によつて、つまり、内在性としての反復が「本来の」(「ontological」)に於て強く坐礁する事によつて罪として意識されて、飛躍を通じて新たな地位に於て自己が永遠性の内へ受取り直されねばならないのである。それは贖罪であり、自由の回復であり、同時に救済としての受取り直しである。

最初に述べた如く、「受取り直し」という言葉によつて表現されている所のは、キルケゴールの思考がそれを中心として廻轉している軸であり、その下に實在の隠されている事物の尖端であつた。彼が實在的範疇乃至テーマとして擧げる多くのものは、この一つの概念に皆關係を持つて來るのである。既に本稿中に於ても、「希望」が、「飛躍」が、「自由」が、「時間」が、「主體性」真理」が、「關係の傳知」が、「受取り直し」との密接な關聯に於て觸れられた。然しその他なお、「二重反省」、「バトスコーミク」等の概念とか、又、例えば「單獨者」(この範疇の詳細に就ては「哲學雜誌」一九五一年九・十月號参照)の範疇をもこゝに擧げる事が出来るであらう。

(筆者：大谷大學短期大學部「哲學」教授)

前 號 目 次

波多野宗教哲學の立場…………… 丹山 正直
 未定稿「波多野宗教哲學」第一章
 波多野宗教哲學とシユライエ…………… 濱田 與助
 ルマツヘル
 ヘブライ思想に於ける神と智慧…………… 有賀鐵太郎
 波多野精一博士の人と學問…………… 石原 省謙
 山谷 啓治
 西谷 知太郎
 田中美 克巳
 松村 克巳

次 號 號 告

認識と所有…………… 山内得立
 ヘーゲルに於ける現實的なものと…………… 平下欣一
 理性的なもの
 唯識に於ける根據の問題…………… 服部正明

會 告

- 一、本會へ入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費をお拂込下さい
- 「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」
- 一、前金切れの場合は帯封に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい
- 一、會員の轉居入退會等(編集事務以外は一切)の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい
- 一、本誌の編集に關する通信・新刊書寄贈雜誌等はすべて本會宛にお送り下さい

京都大學 京都哲學會
文學部内

註 文 規 定

- 一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい
- 一、本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にてお送り下さい
- 一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

昭和二十七年四月十五日印刷
昭和二十七年四月二十日發行

編 集 人 京 都 哲 學 會
京 都 大 學 文 學 部 内

右代表者

發 行 人 酒 井 村 勉

印 刷 人 伊 藤 久 春
京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

印 刷 所 弘 文 堂 印 刷 部
京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

發 行 所 株 式 會 社 弘 文 堂
東 京 都 千 代 田 和 田 澁 河 堤 四 ノ 四

定 價		冊 數	定 價	郵 税
冊				
一	冊	七	十圓	金八圓
六	冊(前金)	四	百二十圓	金四十八圓
三	冊(前金)	八	百四十圓	金九十六圓

(誌代の變更による會費の過不足は半年又は一年毎に精算いたします)

THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXV

April, 1952

No. 9

God and Wisdom in Hebrew Thought (II)Tetsutarô Ariga

"Gjentagelse" of Søren KierkegaardMasaru Ôtani

*Origin of the Theology of Crisis and its Development :
an Inquiry into the History of French Mind during
the earlier Part of Modern Times* (XII)Waichi Himoto

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan